

新しい函館市長に井上さん当選

任期半ばで病氣加療のため市長を退任された木戸浦隆一氏の後任を選挙は、四月二十五日の統一地方選挙の中で行なわれた。多数の候補者が激戦を繰り広げた結果新市長には前の助役の井上博司氏(六二歳)が当選した。

井上新市長の略歴

昭和十一年九月七日函館市東雲町生まれ昭和三十年函館西高校卒、函館市役所に入り、港湾部、土木部などを経て企画室長、商工観光部長、市民部長を歴任。平成八年函館市助役、十年函館市長職務



代理者。十一年三月立候補に伴い退職。温厚な人柄と幅広い職務知識で市民の信頼は厚い。また道南会の総会にも出席されており、多数会員との交流も深い。

井上新市長の抱負

「このたび市民の皆様のご支援をいただき、市政を担当させていただくことになりました。これもひとえに市民の皆様のおかげです。皆様から寄せられた信頼と期待の大きさを考えますと、改めて身の引き締まる思いであり、その使命と責任の重さを痛感しているところでございます。地域経済の停滞をはじめとして、社会経済の仕組みが変化する中で、行政の果たすべき役割には、非常に重いものがございます。市政の運営にあたっては、ひかり輝くまちづくりをめざして、市民の皆様のご意見を頂きながら、心を一つにして、着実に進めてまいります。今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。」

就任のあいさつといたします。」

ひかり輝く町・函館

☆平成十一年度市政執行方針☆

井上新市長は第三回函館市議会定例会において、市政執行について次のように所信を明らかにした。

【基本姿勢】

- 一、前例や従来の方え方にとらわれない抜本的な改革。
- 「市民の自由な発想のまちづくりへの反映」
- 「透明で信頼される市政の推進」
- 「国際的で魅力あふれる都市づくり」
- 二、函館の個性や優位性など発展可能性の拡大。
- 「美しいまちづくりと人材の育成」
- 「創造・発信都市づくり」
- 三、二十一世紀の新しい市役所のかたちづくり。

「市政の取り組みは、あくまで市民生活と市民の目線から出発し、その成果は市民に帰すべきもの」

【重点目標】

- 一、市役所の徹底した自己改革。
- 「スリムで無駄のない市役所」
- 「市民の信頼に足る市役所づくりのために、職員の意識改革と行財政改革」

- 二、多様で力強い産業構造と雇用の創出
- 「各分野の企業活動の活性化を目指す」
- 「景気浮揚策や支援体制の強化」
- 「地域間競争に勝ち抜ける足腰の強い地域経済の確立」

- 三、いきいき高次福祉・文化都市の実現
- 「保健・医療・福祉や教育・文化の各種施策、生活環境の整備」

井上新市長・道南会と懇談

井上新市長は就任後初めて国会や諸官公庁に挨拶のため上京したが、合間を縫って六月十二日、道南会の山下名誉会長、室谷会長、早坂、二上、松田各顧問等と約一時間半懇談した。話題は最近の地元経済の景気動向や、駅前周辺の開発、西部地区の過疎化問題など多岐にわたったが、道南会は函館の強力な応援団として今後とも意思疎通に務めることで意見が一致した。

新しい函館市特別職決まる

井上助役の市長転出に伴い、函館市は市議会の同意を得て次の三氏を六月一日付けで特別職に次の三氏を充てた。

- ▽助 役 三ツ谷富夫(六十二歳)
- 前 収入役
- ▽収入役 梶原 洋一(五十七歳)
- 前 財務部長
- ▽交通局長 岩船 寛(五十七歳)
- 前 企画部長

郷土訪問旅行

道南会の郷土訪問旅行は平成九年五月に道南会創立三十五周年記念行事の一環として実施し、今年は三十五周年と四十年の中間年として企画した。趣旨はなかなか郷土に帰る機会の少ない会員に帰郷のきっかけを作ること、ささやかではあるけれども、郷土の観光振興の一助になればとの願いからであった。

今回の郷土訪問旅行は五月十五日(土)と十六日(日)および十七日(月)に行なわれたが、幸い好天に恵まれ、函館山からの眺望は絶好で、夜景は溜息の出る程の美しい。また五稜郭祭りの賑わいも見物でき、更に松前公園の真っ盛りの八重桜に、心行くまで北国の花見を楽しむことができた。

【様々な行事】

十五日函館入りをした参加者は、早速街や山に、又、親戚知人を訪ねたりした。

室谷会長、田沼副会長、川守田幹事らは、夕刻に市立病院に木戸浦前市長のお見舞いに伺った。木戸浦さんはベッドを降りられて会話を楽しまれ、我々は本復されることをお祈りして辞去した。

午後六時から西浜岸壁近くの赤レンガの立ち並ぶ函館ヒストリープラザの中にある「函館ビヤホール」で懇親会が開かれた。参加者全員と函館市役所、商工会

議所、観光協会などの皆さんも多数参加された。山那助役を始め、元東京事務所勤務された岩船企画部長、関谷課長、三浦課長、久保田課長、古川次長、沼崎観光協会会長らが会員と旧交を暖める場面が、いかにも懇親会らしい雰囲気を出していた。しかも三千円の会費で、ふんだんに出された海の幸の数々、ビールや市から提供されたワインなど、一函館らしい大らかなパーティーであった。海の幸を堪能し、八時の閉会を待ち兼ねるようになり、夜景見物に出掛けた人も多かった。

翌十六日は午前八時半にホテルからバスに乗り一路松前に向う。好天の日曜日



松前城天守閣前にて

とあつて渋滞が心配されたが、十一時に松前公園に到着、助役さんと観光課長さん、それに松前出身の弦巻さんと松前孝子さんのご案内で公園内を散策して桜を眺め、広場の桜の下で昼食をとった。食後に資料館を拝観して岐路についた。

午後三時過ぎバスは五稜郭公園に到着、丁度、維新行列を終えて休憩所に入ろうとする井上市長と会い、戊辰戦争当時の軍服姿の市長と記念撮影をする。



五稜郭祭、井上市長と道南会員

公園内では当時の様々な軍服を着た各隊が壇上に登って氣勢を上げていた。予定した行動を滞りなく終えて、あとは自由行動となる。

新市長へ表敬訪問

観光も一段落して十七日午前十一時に道南会を代表して室谷会長、田沼副会長、川守田常任幹事夫妻、石田会員達は井上市長を表敬訪問した。



話題は先ず再来年平成十三年が道南会創立四十周年に当たるので、盛大な「ふるさと訪問旅行」を行い、その際に記念植樹をさせて頂きたいとお願ひし、市長から快く協力の言葉を頂いた。また東京で小学校の同窓会が活発に行なわれているが、肝心の地元の小中学校が統廃合されてゆくのには残念とのこと、市長は西部地区等の過疎化が深刻で、ある小学校では新入生が九人に満たず野球チームもつくれないという所もあつて、頭の痛い問題ですと。最後に市長は新設の大学や病院を完成させて、元氣な函館作りに努力したいとの抱負をのべられた。

「公立はこだて未来大学」

学長予定者決まる

平成十二年四月開学を目指して「公立はこだて未来大学」の設立に取り組んでいる函館圏公立大学広域連合（函館市、上磯町、大野町、七飯町、戸井町、一市四町で構成）は、初代学長予定者に神戸大学名誉教授の伊東敬祐氏（六四歳、東京都出身）に決定した。

伊東氏は専門が地域物理学、特に自然現象および生命現象の力オスとフラクタルという、公立はこだて未来大学の学科である複雑系科学分野の第一線で教育研究を行なっており、昨年春から開学準備全般にわたって中心的な役割を果たしてきた。

また海外の大学、研究機関に在任した経験が豊富なほか、神戸大学において評議員を務め、大学運営にも精通しているなど、地域が待望する公立大学の初代学長として活躍が期待される。

伊東敬祐さんのプロフィール

- 昭和三十八年 東京大学大学院物理学系 研究科博士課程終了（理学博士）
- 四十三年 大阪市立大学理学部助教授
- カリフォルニア大学客員助教授
- 四十六年 アメリカ航空宇宙局ヒュー・ストン有人飛行センター研究員
- 五十二年 神戸理学部地球惑星科学科教授
- 六年 神戸大学大学院自然科学研究科情報メディア科学専攻教授
- 十一年 神戸大学退官 名誉教授
- 著書 「カオスって何だろう」「フラクタル科学」など

大連・旅順の旅

四月三十日より五月三日までの三泊四日の日程で大連と旅順を旅行した。私は今まで満州の地を踏んだことはなかったが、先輩や友人には大連出身者が沢山あり、満州に就職した小樽高商の同期生も少なくないことから、是非一度は行ってみたいと思っていた。

大連のホテルは「大連富麗大酒店」で二十九階建、旧館四階屋上にテニスハーフトコートが二面あった。

大連は不凍港で、上海と並ぶ中国の貿易港である。人口は全区五百四十万人、市街区二百六十万人で、造船、重工業、化学工業も発達している。市街の公園や緑地、街路には桃、桜、チューリップの

同窓会便り

- ◆白百合学園同窓会東京支部総会
五月二十三日（日）午後四時
ホテルニューオータニ 二百二十名
- ◆函館東高校関東地区青雲同窓会
五月二十九日（土）午後二時
京王プラザ
- ◆東京常磐会
六月十九日 正午
NHK青山荘 二十名
- ◆函館商業高校同窓会東京支部総会
七月十日（土）午後二時
品川プリンス 二百名

室谷邦雄

花が色とりどりに咲いていて綺麗であった。しかし期待していたアカシヤの花は時期が早く、まだ咲いていなかった。街には日本の植民地時代の建物がそのまま現存している所もあり懐かしかった。

旅順は大連市の一行政区で、大連市からバスで一時間の所にある。日露戦争の檜舞台で、広瀬中佐や乃木大将の名前が思い出される。

二〇三高地に登った。「爾靈山」と大きな字で書いた乃木大将の自署の塔が立っていた。水師營会見所は粗末な民家で小学校で習った「：所はいずれこ水師營：」の歌詞を思い出した。

ところで話は変わるが、五月三日無事

◇東京弥生会

十月二十二日（金）午後六時

三越特別食堂

◇白楊ヶ丘（函中・中部）支部総会

十月二十二日（金）午後六時

九段会館

◇東京青柳会

十一月五日（土）午後六時

青山ダイヤモンドホール

◇遺愛同窓会

十二月三日（金）午前十時半

アイビーホール青学会館



帰国したが、松戸の自宅近くで二人の暴漢に襲われたのには驚いた。幸い身体に危害はなかったのは不幸中の幸いであった。八十年も生きていけるといふんなことに遭遇するものである。（道南会会長）

ブルガリアの桜を訪ねて

川守田 孝 平

東海大学の相馬先生が、ブルガリアでのさくら植樹のツアーを募集していたので、それに参加した。

相馬先生は、東海大学とブルガリアとの学術交流が縁で、交換学生による同大同学窓会ブルガリア支部設立の際、「これを機会に、日本とブルガリアの国際親善のため、桜の木を記念植樹しようではないか」との提案をなされ、四年前に五十本の苗木をブルガリアのバルナ市に送った。

その後現地同窓会の皆さんの手によって、苗圃で大事に育てられていたが、この程見事に花開き、黒海に面する同市のプリモルスキー海洋公園に、移植することになったものである。

今回の旅行はこれに加えて、モスクワ、ウィーン、ブダペストの三都市をめぐるという、楽しみの多い旅で、一行は相馬先生ご夫妻を始め十二名、道南会からは、先生の他、山木和子さん、須藤珠実さんと私達夫婦の五名が参加した。

四月十日、小雨の煙る成田空港を飛び立ったエアフロートSU五八一便は、最初の目的地モスクワに向った。

モスクワまでの飛行時間は約十時間、飛行機がだんだん高度を下げると、下界の景色が白一色の雪原から、一面に広がる縞模様様の畑に変わり、間もなくモスクワ・

シエレメーチエヴォ空港に着陸した。

この日はモスクワホテルに次ぐ、モスクワ第二のホテルという、コスモスホテルで最初の夜を過ごした。

翌日はクレムリンに始まり、赤の広場、国立トレチャコフ美術館見学などの市内観光をし、三日目はいよいよブルガリアの首都ソフィアに向けて、モスクワをあとにした。



バルナに咲いた日本の桜

ソフィア空港には相馬先生の教え子や、知人の方々が大勢迎えに出ておられ、先生や奥様と懐かしい対面をしたが、名残りを惜しみながら黒海沿岸のバルナに向った。

バルナ空港でもハシカロフ元駐日大使

を始め同窓会の方々などの温かい出迎えがあり、相馬先生のご人徳が偲ばれた。

四月十三日、黒海の地平線から顔を出した太陽が、雲のすだれの中からまばらな光を射しながら、静かに昇って来る。今日の植樹祭を祝うように天気も上々である。

植樹祭の行事の前にバスでバルナの町を一周した。町の並木はちょうど新緑が芽吹いて、鮮やかな色が眼に眩しかった。

バルナは北海道と緯度が同じというだけあって、草や木に似たものが多く、ポプラ、ライラック、タンポポ、スミレなどがあちらこちらで見られた。

このあとバルナ市のシンボルである大聖堂を見学。美しいステンドグラスが嵌めこめられた聖堂では、厳粛にミサが行なわれていた。

次に一行は市長への表敬訪問のため、市庁舎に向った。早速会議室に案内をされ、市助役のカシロフ博士にお会いし懇談に入った。

助役から市の現況説明に続き、この度のさくら植樹のお礼と相馬先生に対しての感謝の言葉があった。相馬先生からは、「この植樹を機会に、バルナと函館の国際親善の絆をますます太くするために、両市が姉妹都市を結ぶということが可能であれば喜ばしい」と挨拶をされた。

和やかに懇談を終えたあと、助役の案内で植樹祭が行なわれる海洋公園に行つ

た。公園では既に桜を植える穴が掘られ、準備が整っていた。

地面に埋められた真新しいプレートに、ひととき目立ってMACKEN (MAS AKI) COMA (SOMA) の十文字が輝いている。その脇に掘られた穴に苗木を入れ、助役、相馬先生、そして奥様が次々に鍬を入れ土を盛った。



植樹祭

横の広場では、美しい民族衣装に着飾った地元少年少女が、フォークダンスを披露してくれ、われわれもその輪の中に入って踊るなど楽しいひとときを過ごした。

静かに波をたたえる黒海の、美しい砂浜を望むこの公園に、日本の桜が可憐な花を咲かせて風にゆれている。

三年後、五年後、そして十年後にはこの公園だけではなく、ブルガリアの各地に日本の桜が深く根付き、美しい花を咲かせてくれることであろう。

ベネルックス三国を旅して

沼崎 貞良

四月十七日から十二日間ベネルックス三国（オランダ・ルクセンブルグ・ベルギー）を旅行した。五年前に四十年のサラリーマン生活を終え、毎年妻と海外旅行を楽しんできたが、今年はオランダのチューリップを見ることにした。

成田から十二時間でヨーロッパといわれるオランダのアムステルダム・スキポール空港に到着。先ず東京駅から遊覧船で運河巡りをする。扇状に広がる清潔な運河から、街の中心のダム広場、王宮、教会、アンネフランクの家、花市場、国立美術館、ゴッホ美術館等を訪ねる。中でも、かねてからは非見たいと思っていた国立美術館のレンブラントの「夜警」に感動した。夕食はオランダの代表的な家庭料理の牛肉と野菜を煮込んだヒュッソポットが美味しかった。



のどかに回る風車

かに回る風車に心休まるザーセスカンスの村を通って、世界一の花の公園キューケンホフ公園に行く。開園五十年の公園の二十八ヘクタールの敷地に四千種、七百万株のチューリップやヒヤシンスが色とりどりに咲いている。正に花の絨毯の中を二時間にわたり散策し、堪能した。その後、ハーグ、ユトレヒト、マーストリヒトを訪ねた。ハーグは政治の中心で、国会や国際司法裁判所、各国大使館が集まっている。

翌日は緑色の壁の美しい家々と、のどかに回る風車に心休まるザーセスカンスの村を通って、世界一の花の公園キューケンホフ公園に行く。開園五十年の公園の二十八ヘクタールの敷地に四千種、七百万株のチューリップやヒヤシンスが色とりどりに咲いている。正に花の絨毯の中を二時間にわたり散策し、堪能した。その後、ハーグ、ユトレヒト、マーストリヒトを訪ねた。ハーグは政治の中心で、国会や国際司法裁判所、各国大使館が集まっている。

ス広場は、ゴシック様式の市庁舎と対面には市立博物館、左手にはギルドハウスなどの建築物に囲まれ、見ていて飽きることはない。広場から二百メートル程歩くと高さ六十センチのブロンズの小便小僧に出会う。「世界三大がっかり」（小便小僧・シンガポールのマライオン・デンマークの人魚像の一つだそうだが、三つとも見た私は、がっかりどころかユーマラスなオシッコ姿に何度もシャッターを押した。



ベルギー郊外の古城・ペーヴ城

それからルイ王朝風の王宮、聖ミッシェル大聖堂、さらにEU本部、NATO本部等を見学したが、コソボ紛争のせいかなATO本部の車の出入りが多いように思われた。

観光途中で名物のワッフルを試みたが夕食はイロサクレと呼ばれる食物横丁でワテルゾーイ（魚と野菜のクリームシチュー）を味わった。国民の一人当たりのレストランの数がヨーロッパ随一という国だけあって、この食物横丁は両側に

レストランが並び、函館の朝市を思い起こした。そして多くの店の前に日本語で「いらっしやいませ」「日本人歓迎」の貼り紙に思わず笑ってしまった。ここでは水は有料でビールやコーヒーと同じ位。ビールの消費量は一人当たり日本の三倍、四百種類があるという。酒に弱い私も、記念に女性に人気の果汁入りビール「ベルビュークリク」を試してみたが、中々いける味であった。

アントワープではルーベンスの名作「キリストの降架」のあるノートルダム大聖堂や、黄金の鷲が最頂部を飾るルネサンス様式の市庁舎見学した。

最後の訪問地ブルージュは「橋」の意味で、五十以上の橋があり「水の都」とも呼ばれる。十二・三世紀頃西ヨーロッパ第一の貿易港で商業の中心であった。街の中心のマルクト広場を取り巻く建物を見学し、ミケランジェロが唯一国外に残した「聖母子像」のある聖母教会を訪ねた。最後に運河巡りをしたがベニスのゴンドラ周遊とちがった趣があった。夜は名物のムール・ヴァン・ブラン（ムル貝白ワイン煮）をビールと共に味わってツアーの最後を楽しんだ。

ベネルックス三国は合わせても北海道よりも狭い土地に、豊かな自然と、歴史を刻んだ美しい街並を大切に守っている情緒豊かな地域であるというのが、観光を終えての感想であった。

「梅田君のカラオケ半生記」

相馬正樹

梅田良太郎君は本年一月二十日、急性肺炎で七十八才の生涯を閉じた。

顧みるに、梅田君は中学時代には陸上競技部に属して、短距離や走高跳びの選手として活躍していた。また歌も得意としていて、戦時中で自粛を強いられていたからあまり歌う機会はなかったが、歌手を志したこともあったようだ。



戦後松下電器に勤めて、札幌支店の営業担当になってから、スキ野界隈で歌と話術に磨きがかかり、彼がエンターティナーとしての自信を身につけたに違いない。戦前に育った我々には、彼のような派手好みの目立ちたがりやは、道産子には異色の存在に見えた。それだけに、さわやかな弁舌で田舎者を煙に巻き、北海道では抜群の営業成績をあげたらしい。

東京に転任してからは会社の金で遊ぶ

き合いはどうしてそんなに長つづきするの」と驚いたりあきれられたりしたものだ。

☆

ことはなくなつたが、余勢を駆って新橋を舞台に自慢の美声を聞かせて徘徊し続けていた。梅田君が本格的にカラオケ三昧の生活に入ったのは、会社を辞めてからだだから、カラオケが歌詞本の時代からレーザーの映像に移った頃だ。当時私は清水の海洋学部に通務し、金曜日には東海道線を大船で横須賀線に乗り換えて逗子に帰るのが毎週のパターンであった。ところが、サンデー毎日の彼は夜な夜な大船の巷に出没し、寂しくなると、私を拉致するために駅で張り込みをしている。

こんな不慮の巡り合わせから彼と紅灯緑酒の巷での付き合いが始まった。これという目的はないが、酒を飲むというよりは自分の歌を聞かせるのが狙いの方であった。彼の歌うのは一晩に十曲くらいであるが、騒音に耐えて聞くだけではない、拍手もしなければならぬのだから、なみなみならぬ忍耐が必要である。その上一曲二百円だから十曲も歌えばあまり飲む暇がないから、カラオケ代の方が飲み代より高くつくこともあった。これで払いが歌わない私との割り勘では不当だといふので、カラオケ代は歌った方が現金で支払うことにした。

こんな状態が十年ぐらいも続いたのだから、同期生たちは「お前と梅田との付

ともあれ、定年後はささやかな年金を頼りに控え目に余生を生きる人が多い中に、彼のように晩年をカラオケ一筋に歌い続けた人も少ないだろう。

☆

宮沢賢治流に書けば、
「雨にも負けず 風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫な体を持ち、
東に結婚式があるといつては歌い
西に病める友があれば、
歌を歌えばすぐ楽になると慰め
日にカラオケ二十曲を歌いまくり
お義理の拍手に目尻を下げる。
買い物帰りのおばさん族からは
カラオケ先生と崇められ、
寄り添ってデュエットで歌い
思い出しては鼻の下を長くする。
そういう人に私はなりたいたい」。

☆
梅田君はカラオケをこよなく愛し、彼なりに十分楽しい晩年を過したと思う。二十一世紀の幕開けに巡り合えなかった心残りはあったとしても、七十八歳の長寿を全うし他に迷惑をかけずに惜しまれながら他界できたのは、羨ましい大往生と言えるだろう。是非あやかりたいものだと思ふ、ご冥福をお祈りする。合掌

(道南会顧問)

道南会行事報告

☆「新年総会」

二月六日(土)午後一時より、日比谷のプレスセンタービル十階ホールで開催、参加者は百名であった。室谷会長の挨拶に続いて療養中の木戸浦市長に代わり岩船企画部長から祝辞を頂き、業務報告、会計報告、監査報告のあと、山下名誉会長の発声で乾杯して祝宴に移った。

祝宴の冒頭で十三人の新入会員の紹介があり、最後に福引きを楽しみ、能味副会長の関東一本締めで、午後三時に閉会した。

☆「観梅会」

二月二十七日(土)午後、晴天に恵まれ新宿御苑で「観梅会」を楽しんだ。

道南会夏期懇親会

平成十一年の夏期懇親会を次の通り開催します。

一、八月二十一日(土)午後一時

(受付開始 〇時三〇分)

二、場所 ホテル聚楽(じゅらく)

(お茶の水駅傍・地図別添)

三、会費 六〇〇〇円

(女性 五〇〇〇円)

◎ 八月十四日迄に同封返信はがきを忘れずに投函して下さい

だ。三十五名の参加会員は梅林の近くの広場でビールを酌み交わし、満開の梅の前で写真を撮り、歓談した。



☆「吉野梅郷を訪ねて」

三月十九日(土)は雨のため参加者

十一名だけが午前十一時に二俣尾駅に集合。幸い小降りの雨の中「吉川英治記念館」を訪ね、庭の紅梅を楽しんだ。

続いて二軒歩いて「吉野梅郷」に着き、

数千本の梅林の中の茶店で雨を避けながら燗酒を酌み交わし三時頃、帰路についた。

☆「観桜会」

四月三日(土)昼、地下鉄「茗荷谷」

駅前に集まり、播磨坂を埋め尽くす桜並木を通り抜け、「小石川植物園」に入る。四十名の参加者は八分咲の桜の下で弁当をひろげて歓談し、園内を散策して三時過ぎ散会した。

☆「昭和記念公園」観桜会

四月十日(土)雨を心配しつつ午前十時半西立川駅に集合。参加者は二十名余、桜の林を指す途中から細かい雨が落ちてきた。やがて雨も上がり公園内を散策すると、数千本のポプリが咲き乱れているのに息を飲んだ。桜も散り加減で雨に見舞われたが、印象に残る観桜会であった。



☆「谷津バラ園」

六月五日(土)午前十一時半、京成谷津駅に三十人が集合。八千本のバラが香り高く集合美を作っていた。バラの香に包まれてビールで乾杯・弁当を

使い盛りのバラをバックに写真を撮りあつて散会。

☆「野菊の墓、矢切の渡し、柴又」散策

七月十七日(土)午前十一時北総線矢切駅前に三十五名が集まり、「野菊の墓」の記念碑を見て矢切りの渡し場に着き、江戸川を眺めながら弁当を使う。折からの増水で渡し舟は欠航、やむなく橋を渡って柴又の「帝釈天」に参詣。寅さんブームがあとを引く商店街を散策して午後三時散会。

亀戸の松前桜

亀戸の香取神社境内には今年も松前桜が美しい八重桜の花を咲かせた。ご存じの松前出身の川畑幸夫さんが三十年前から丹精籠めて育てたもので、昨年道南会が植樹をした幼木も良く育っていた。満開の時期には愛好家が沢山訪れ、今年北海道新聞や室蘭民報でも報道された。

「写真は満開の松前桜と川畑さん」

